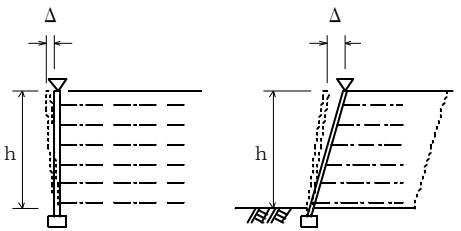
共通仕様書の変更修正について

区分	頁	編	章	節	条	項	H17共通特記仕様書現文修正	改訂意見･理由	備　　考
出来形管理基準	24	3	3	14	3		桁製作工（鋼製堰堤製作工） ○測定項目『ベースプレートの高さ』の規格値を以下のとおり修正する。 (誤)　±5　→ (正)　±10	鋼製砂防構造物設計便覧（平成13年度）改訂されましたが、記載内容が変更されていないことから修正。	
出来形管理基準	98	3	3	4	18		架設工 ○測定項目『通り』の規格値を以下のとおり修正する。 (誤)　±（10＋L／5）　→ (正)　±（10＋2L／5）	誤記により修正する。 道路橋示方書･同解説（Ⅰ共通編Ⅱ鋼橋編）（平成14年3月）P.432による。	
出来形管理基準	90	3	3	4	9	1	鋳造費（金属支承工） ○鋳造費（金属支承工）の出来形管理基準を別表①のとおりとする。	道路橋支承便覧（平成16年4月）の改訂内容が反映されていない。	
出来形管理基準	4	1	2	3	4		補強土壁工 ○現在、河川土工の盛土補強工を準用する基準としているが、鉛直度等の基準も必要であることから、出形管理基準を別表②のとおりに変更する。（H15.4版出来形管理基準と同じ）	別紙②のとおり	
参考資料	611						ロックボルト（NATM） ○ロックボルトの引抜き試験の試験方法『参考資料「ロックボルトの引抜試験」【施工管理基準1-556～558頁】』を以下のとおり修正する。 (2)計測の要領　ロックボルトの引抜試験方法に従って行う。実施時期は施工後3日経過後とし、最大引抜荷重は~~10ton~~80%程度以上とする。	記載内容を修正すべきであったが未修正であった。 トンネル標準示方書〔山岳工法編〕･同解説　P.182：参照	

〔別　表　①〕

編	章	節	条	枝番	工　種	測　定　項　目			規　格　値	測　定　基　準	測　定　箇　所	摘　要
3 土木工事共通編	3 共通施工	4 道路関係	9	1	鋳造費（金属支承工）	上･下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差		＋2 －0	製品全数を測定。		
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								≦1000㎜	≦1			
								センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								＞1000㎜	≦1.5			
						アンカーボルト用孔（鋳放し）	孔の径	≦100㎜	＋3 －1			
								＞100㎜	＋4 －2			
							孔の中心間距離		JIS B 0403-95　CT13			
						センターボス	ボスの直径		＋0 －1			
							ボスの高さ		＋1 －0			
						上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法			JIS B 0403-95　CT13			
						全移動量 ℓ	ℓ≦300㎜		±2			
							ℓ＞300㎜		±ℓ／100			
						組立高さ H	上、下面加工仕上げ		±3			
							コンクリート構造用	H≦300㎜	±3			
								H＞300㎜	±(H/200+3) 小数点以下切り捨て	※1 片面削り加工も含む ※2 ただし、ソールプレート接触面の橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する		
						普通寸法	鋳放し長さ寸法　※1、※2		JIS B 0403-95　CT14			
							鋳放し肉厚寸法　※1		JIS B 0403-95　CT15			
							削り加工寸法		JIS B 0405-91　粗級			
							ガス切断寸法		JIS B 0417-79　B級			

〔別　表　②〕

編	章	節	条	枝番	工　種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路編	1 道路改良	5 擁壁工	7		補強土壁工 （補強土〔テールアルメ〕壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基準高 ▽		±５０	施工延長４０ｍ（測点間隔２５ｍの場合は５０ｍ）につき１箇所、延長４０ｍ（又は５０ｍ）以下のものは１施工箇所につき２箇所		
						高さ h	h＜３ｍ	－５０			
							h≧３ｍ	－１００			
						鉛直度 Δ		±0.03h かつ ±300以内			
						控え長さ		設計値以上			
						延長 L		－２００	１施工箇所毎		